

律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。「イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。『これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。隣人を自分のように愛しなさい。』」マタイ22章

隣人を自分のように愛しなさい。

門真市から出た偉人に松下幸之助氏がいますが、総理大臣として憲法九条を考えた幣原喜重郎(しではらきじゅうろう)氏はあまり知られていません。九条は、アメリカ占領軍ではなく、幣原総理大臣の信念から出た案だったと、彼の秘書が残してあった「平野文書」という記録からわかり、今、注目されています。幣原は、「世界平和は、『戦争放棄と一切の軍備を廃止すること』でしか実現できない」と考えて、世界で初めて戦争放棄の憲法の案をマッカーサーに伝えました。「敵にせめられたらどうする！」この反論に対して彼は、「これを始める『一人の狂人』を世界は必要としている。戦争に負けた日本だからこそ、これができる。」と答えたのです。

イエスさまは、地上に真の平和を求めています。これを妨げているのは人間の自己中心主義つまりエゴイズムです。すべての人の中に住むこのエゴがなくなる限り、イエスさまのおきては実現しません。この実現不可能に思える「愛のおきて」を始めた、最初のひとりを引き受けた方がイエス様です。人類の真の幸せを求めて愛のおきてを掲げたキリストに、憲法九条をかかげた幣原喜重郎が重なって見えます。

2020年10月25日 昌川信雄神父